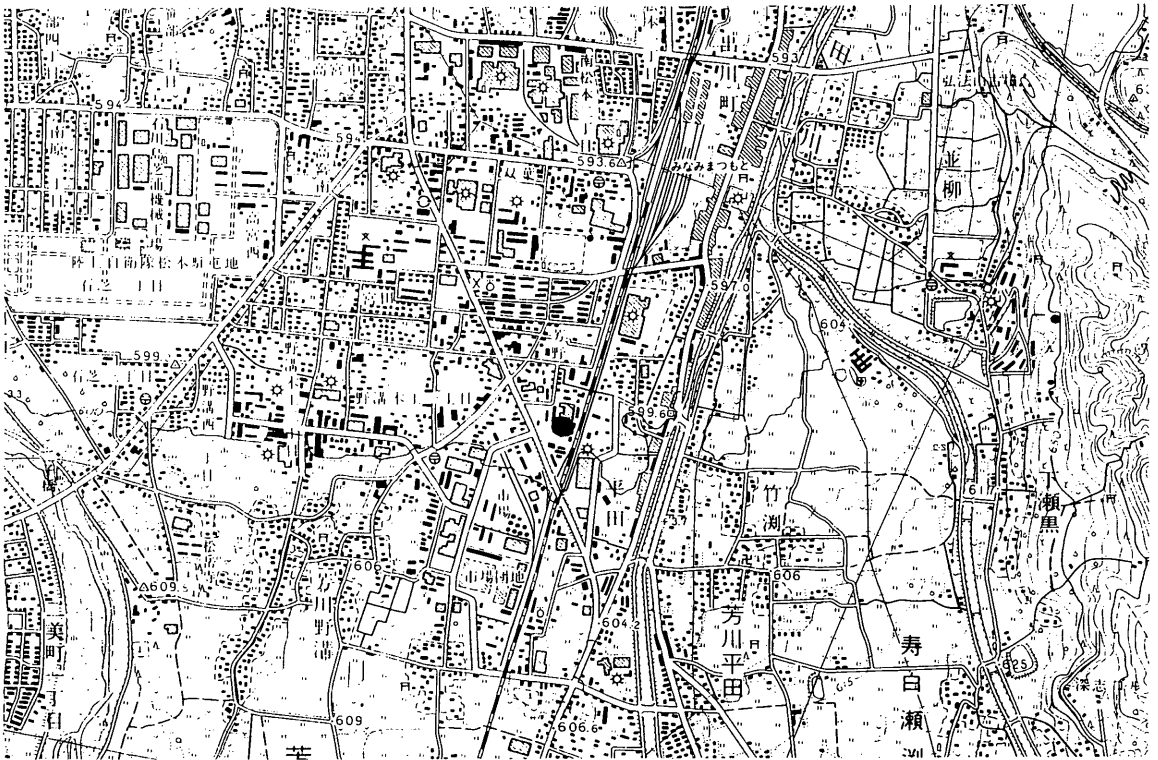


HIRATAKITA

# 松本市平田北遺跡Ⅲ

—— 緊急発掘調査報告書 ——



1995.3

キッセイ薬品工業株式会社  
長野県松本市教育委員会

## 例 言

1. 本書は平成6年9月16日から12月22日にかけて3回に亘り実施された、松本市芳川平田に所在する平田北遺跡の第3～5次の緊急発掘調査報告書である。
2. 本調査は(株)キッセイ薬品工業の諸施設建設工事に伴う発掘調査であり、松本市が同社より委託を受け、松本市立考古博物館が調査を実施したものである。
3. 調査当初のD地点は工事による掘削が遺構面まで達せず、2点の土器片のみの出土であったため、整理時にE地点をD地点と改称している。
4. 発掘調査は、関沢 聡・柴 秀毅（3・4次）、高桑俊雄・久保田剛（5次）が担当した。
5. 本書の執筆は、竹原 学の協力を得て、関沢、高桑が行なった。又、本書作成に関わる諸作業は下記の者が行なった。

土 器 実 測：平出貴史、MIN AUNG THWE

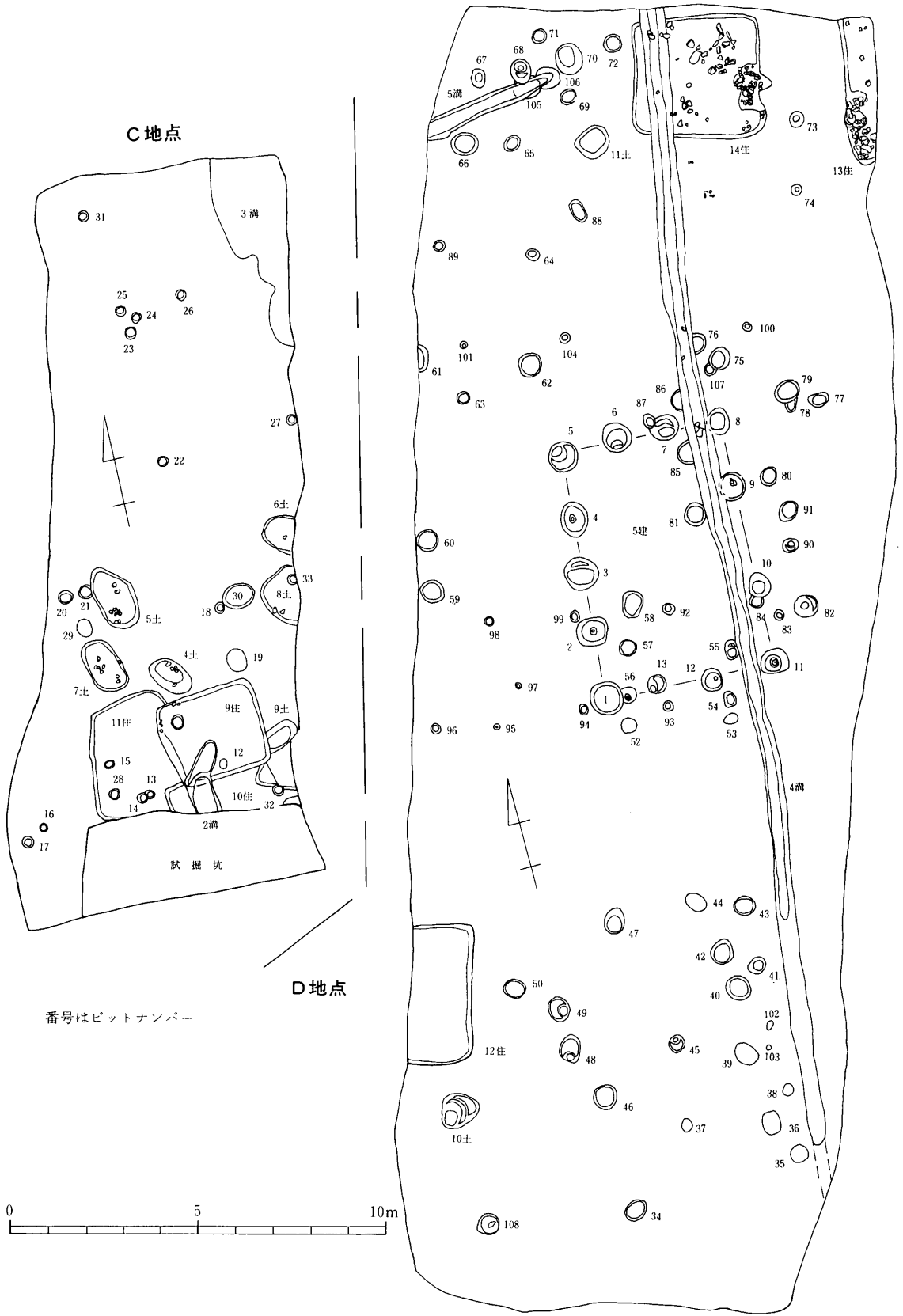
トレース作業：竹原久子、松尾明恵

6. 出土遺物・図書類等に関しては、松本市立考古博物館が保管している。

## 調 査 結 果

調査は、平成4年度にA地点、5年度にB地点で実施し、そして今回更に2地点での成果を加える事となった。C地点では120㎡の実質調査面積で奈良時代～平安時代の竪穴住居址3軒、土坑6基、中世を中心としたピット22基、溝2本など。D地点では約420㎡において平安時代の竪穴住居址3軒、土坑2基、ピット74基、溝2本、また古墳時代と思われる掘立柱建物址も1軒調査している。

前回のA・B地点では古墳時代中期から平安時代までの竪穴住居址8軒などがあり、今回の結果もそれを補充する事となった。当地の北600mには古墳時代後期から奈良時代前期の大集落である出川南遺跡があり、本遺跡はそれに後続するものである事がわかった。又、この南には灰釉陶器の椀、皿、長頸壺等をもつ平安時代の墓址らしき遺構がある平田遺跡が近接する。更に南1kmには平安時代前期を中心とした100軒近い集落の平田本郷遺跡等が位置している。今回の本遺跡の調査結果も、平安時代更には中世といった新しい時期の存在を予想させる。これら数回に亘った一連の調査は一会社の敷地内ではあるが、資料の集積により新知見を加える事につながっていくものと確信する。



C地点

D地点

番号はピットナンバー

遺構配置図

## 遺構と遺物

### ①住居址

**第9号住居址** C地点の南側に位置し、規模2.74×2.40mの方形を呈する住居である。10・11住よりも新、2溝より古。床面は僅かに炭化物が認められた。ピットは北西部に1基があるだけである。なお、本址はカマドがないことから竪穴状遺構として捉えたほうがよいのかもしれない。遺物は覆土の上～中層から須恵器の蓋・杯、土師器の甕の小片が出土している。図化できたものは須恵器の杯蓋1点だけであるが混入品である。本址の時期は10住との切り合い関係から平安時代以降と捉えておきたい。

**第10号住居址** 南側が試掘坑で削平されている。主軸方位N-80°-E、東西辺2.87mの方形を呈する住居址と推定される。11住より新、9住・2溝より古。床面は地山の土層が異なるため東側2/3は暗灰褐色土、他は灰褐色土となる。ピットは調査範囲では確認されなかった。東壁の北寄りに石組みカマドが構築されている。カマドは地山を掘り残して袖の一部とし、左右に袖石が各1個、火床面の中央には支柱石が残存していた。また、左袖石の上部には被熱した花崗岩礫が出土し、天井石と推定する。なお、左袖石の手前の小ピットは袖石の抜取り痕だろうか。煙道は調査区外にかかるが長さ1.1mは確認できた。出土遺物はカマド内から土師器の甕と、須恵器の大甕破片、覆土中から須恵器の杯などがある。本址の時期はカマド内から出土した甕から平安時代（9世紀前半）と推定される。

**第11号住居址** 10住同様南側が試掘坑で削平されている。9・10住に切られているため、北壁1.9m、西壁2.9mが確認できたにすぎないが、不整な長方形となろうか。覆土は焼土、炭化物を比較的多量に含む暗褐色土で、床面が土色や堅さで明瞭に捉えることができなかつたため、遺物・炭化物が認められなくなる所を床面と推定した。ピット・カマドは認められないが、東側で覆土中の焼土量が多くなることから、東壁にカマドが構築されていた可能性がある。遺物は拳大礫と共に床面～床上10cmから土師器の甕、須恵器の壺・坏・壺が出土している。本址の時期は、出土遺物から奈良時代（8世紀初頭）と推定される。

**第12号住居址** D地点の南西に位置し、西側は調査区外となる。南北3.82mを測り、方形となろう。床面は僅かに堅さが認められる。ピット・カマドは調査範囲内では確認されなかった。遺物は覆土中～下層から散発的に出土する。これらは土師器甕類、黒色土器杯、椀、灰釉陶器の椀、小瓶、壺などである。鉄器として刀子1点がある。これらから本址の時期は平安時代（9世紀後半）と推定される。

**第13号住居址** D地点の北東端に位置し北・東側が調査区外にかかるため、住居の南西隅を確認したにすぎない。床面は自然礫上にあり、堅さはない。調理施設は西壁南寄りに石組みカマドが構築されている。カマドは中型の石12ヶが袖部を形成し、中央奥側に土師器の小型甕の底部を被せ

た支柱石が位置する。その南側床面上には小児頭大の石が多数転入していた。焼土は僅か認められる。遺物は、カマド内及び付近の床面上、北部の覆土上層に多く、土師器坏、甕類、黒色土器杯などである。これらより本址の時期は平安時代（9世紀後半）と推定される。

**第14号住居址** D地点の北端に位置し、主軸方位N-103°-W、規模3.3×3.4mの方形を呈する住居である。4溝より古。床面には鉄分が沈殿し、茶褐色土塊多量混入黄褐色を呈し、非常に堅い。ピットは認められない。東壁中央には石組みカマドが構築されている。粘土袖の上部には土師器の甕片が貼り付き、そこには煤も付着している。中央には支柱石があり、多量の焼土も存在する。遺物はカマドの南側、床面上に残存状態の良いものが多く、更に南東隅の張り出し部の床面上にもみられる。これらは土師器の甕類、黒色土器坏、椀、軟質須恵器、須恵器の坏などである。他に鉄器として釘2点なども出土した。これらから、本址の時期は平安時代（9世紀中頃～後半）と推定される。

## ②掘立柱建物址

**第5号建物址** D地点のほぼ中央に位置する。13基のピットから成り、4(3)間×3間の側柱式で、主軸方位N-3°-Eである。規模6.73×4.70(4.36)mで、柱間寸法は桁側1.46～2.96m、梁側1.32～1.61mである。柱の掘り方は円ないし不整形で、検出面からの深さは19～54cmである。柱痕はP2～5・P9・P11～13で確認することができた。遺物は小片のみであるが、P8中の土師器坏をとると古墳時代末期と推定される。

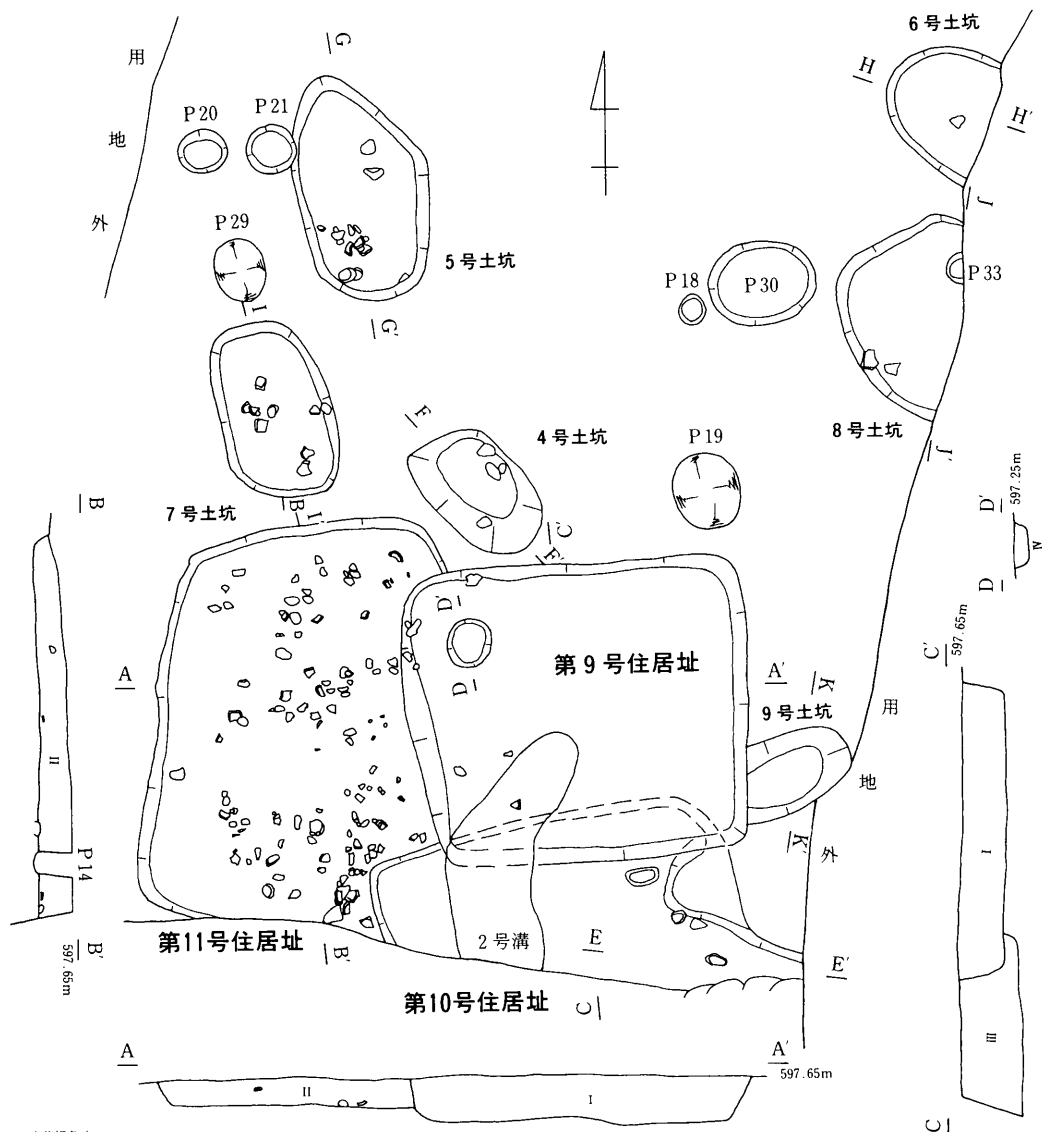
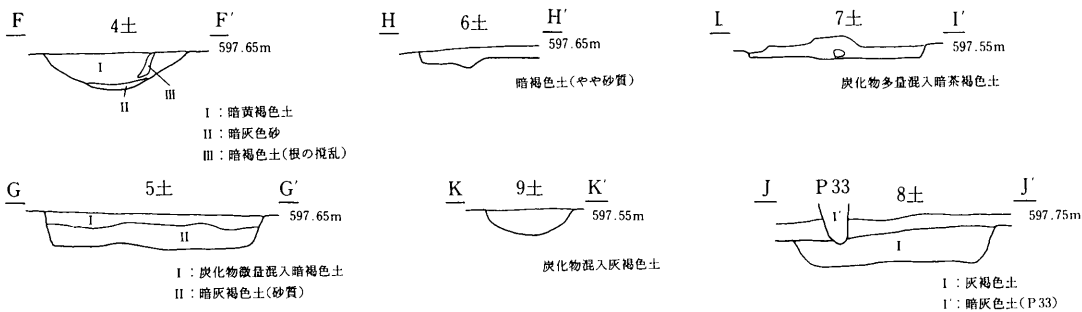
## ③土坑・ピット

土坑はC地点で長径1m以上の6基、D地点ではピットより大きく不整な2基を捉えた。C地点の4～9土はD区に見られないほど大きく、9土を除き遺物を出土している。須恵器坏(5土)、同杯蓋(7土)、土師器杯(8土)等で、他に土師器甕、黒色土器等がある。これらは奈良～平安時代に含まれ、周囲の9～11住と時期的に同一なものである。

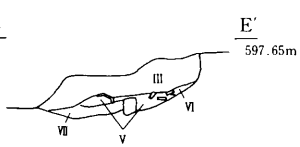
ピットはC地点では22基、D地点で74基がある。C地点では大半のピットが住居址よりも新しく、その覆土が灰色系を呈している。これはD地点における直径35cm程迄の小型のピットも同様で、今まで市内の中世遺構によく見られている。遺物的には貧弱で、古墳時代～平安時代の小片が見られるのみであり、中世的遺物は皆無である。

## ④溝

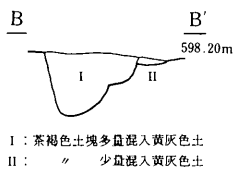
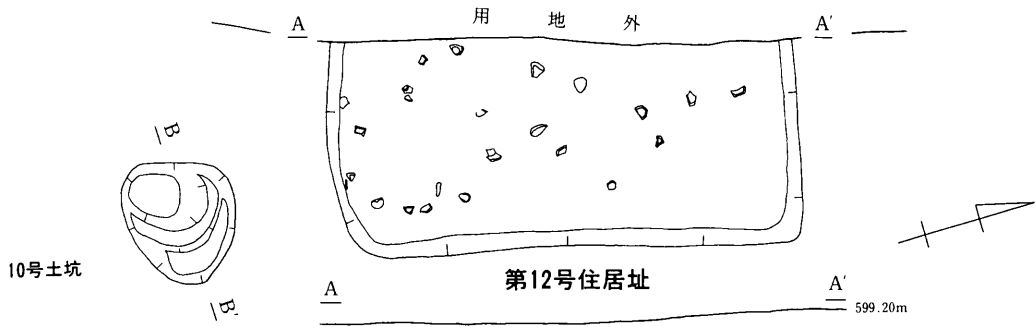
C地点で2本(2・3溝)、D地点で2本(4・5溝)が検出されている。3溝は自然流路で、底面に鉄・マンガンの集積が認められる。覆土は砂利～砂層が3次にわたって堆積し、上方からは土師器、須恵器が比較的まとまって出土している。2・4溝は灰白色系の覆土をもつことから、中世以降に属するものと推定される。特に4溝は南北方位を意識して、断面を見ても人為的に掘られた溝の可能性が高い。5溝は長さ3.7mを確認したにとどめた。幅は60cm、深さも50cm程と深い。全容がわからないのは残念である。



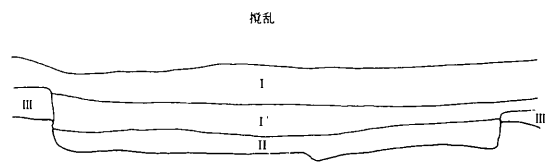
- I : 暗黄褐色土
- II : 烧土、炭化物混入暗褐色土
- III : 暗褐色土
- IV : 灰褐色土
- V : 暗褐色土
- VI : 烧土混入暗黄灰色土
- VII : 烧土、炭化物混入暗黄褐色土



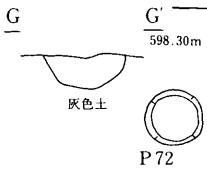
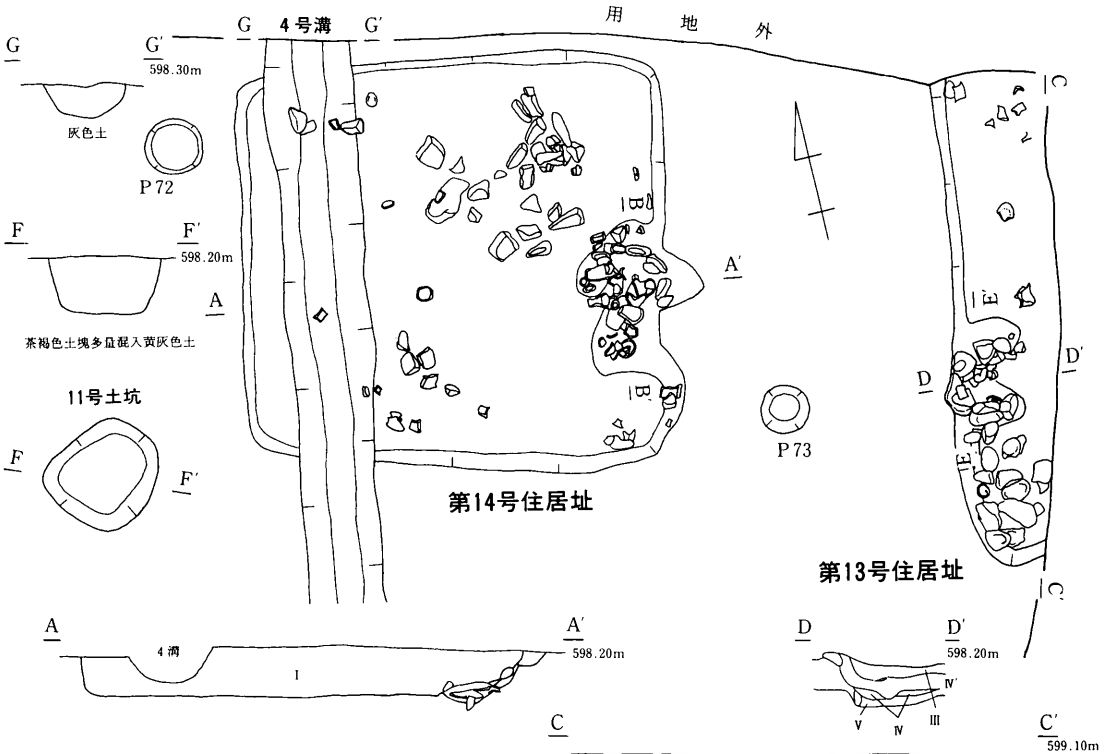
C 地点遺構



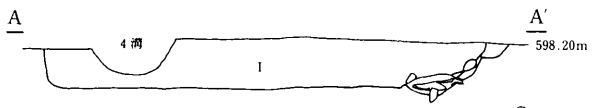
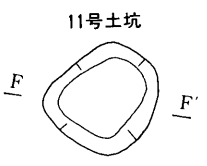
I: 茶褐色土塊多量混入黄灰色土  
 II: " 少量混入黄灰色土



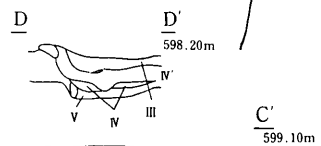
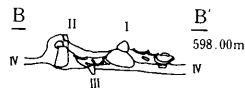
I: 黄褐色土  
 I': 炭化物混入暗黄灰褐色土  
 II: 炭化物混入黄灰褐色土  
 III: 黄灰褐色土



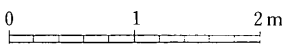
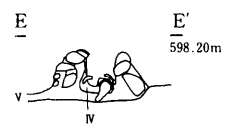
I: 灰色土  
 II: 茶褐色土塊多量混入黄灰色土



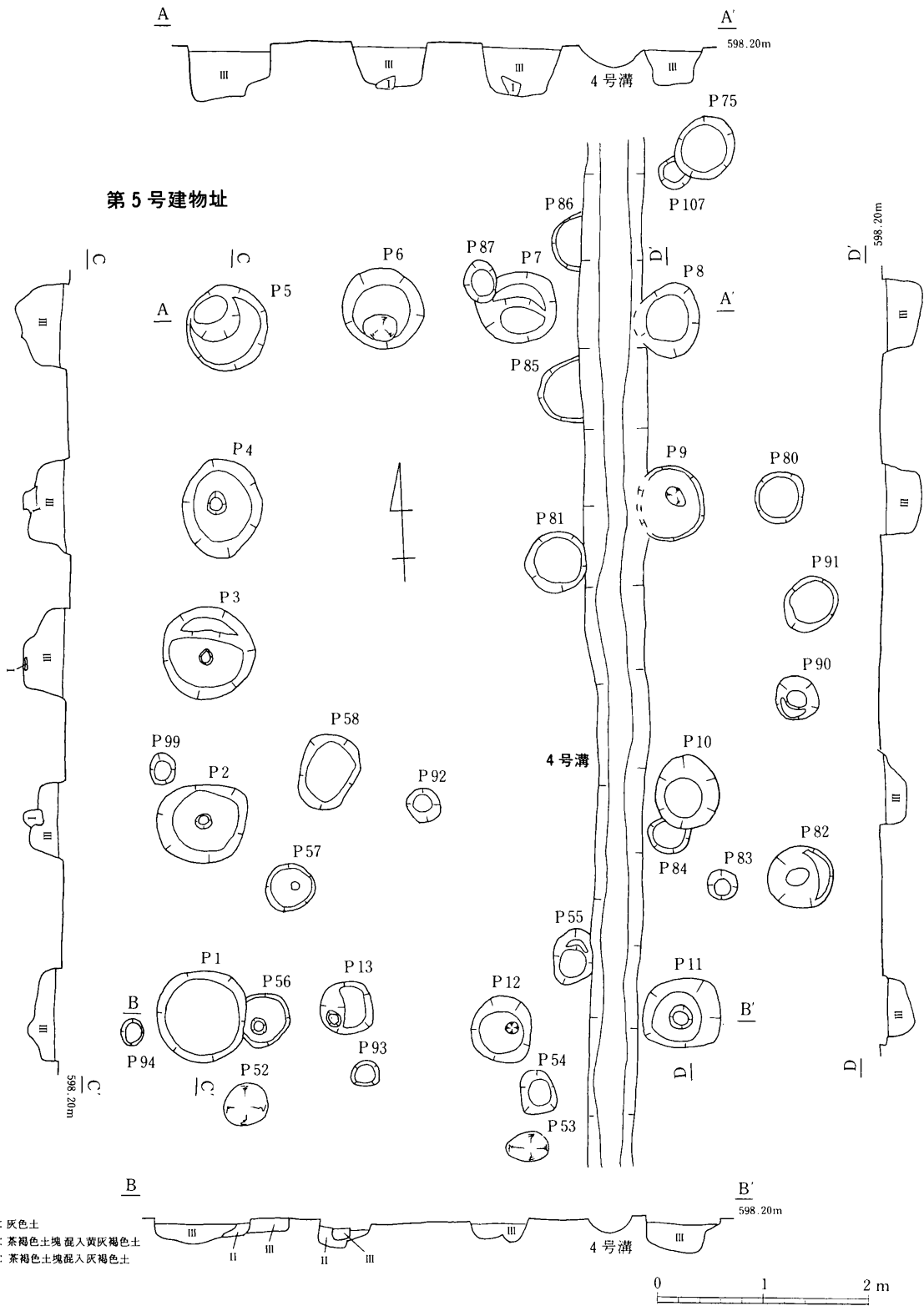
I: 茶褐色土塊少量混入灰褐色土  
 II: 礫土塊混入 " "  
 III: 炭化物、礫土粒多量混入 " "  
 IV: 黄灰色土



I: 鉄分多量沈殿灰色土  
 II: 灰色土  
 III: 茶褐色土塊少量混入灰褐色土  
 IV: やや明るい灰褐色土  
 IV': 礫土塊少量含む  
 V: 砂質暗灰褐色土



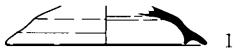
D 地点遺構 (1)



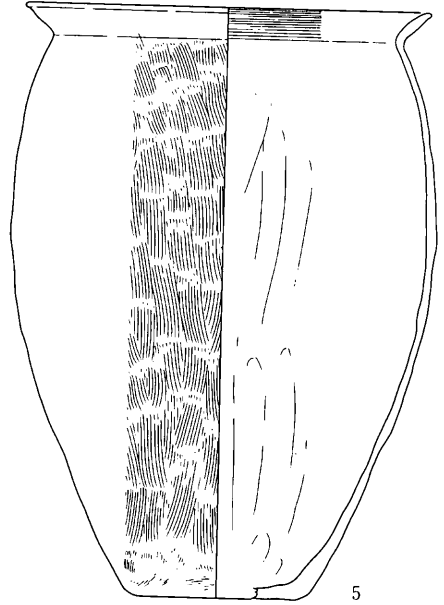
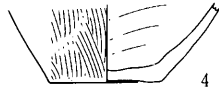
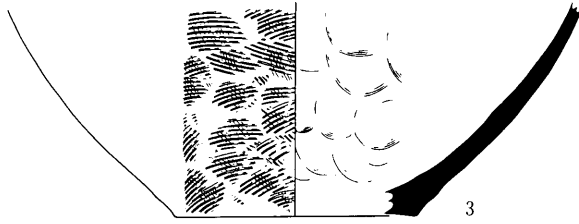
D 地点遺構 (2)



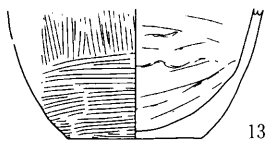
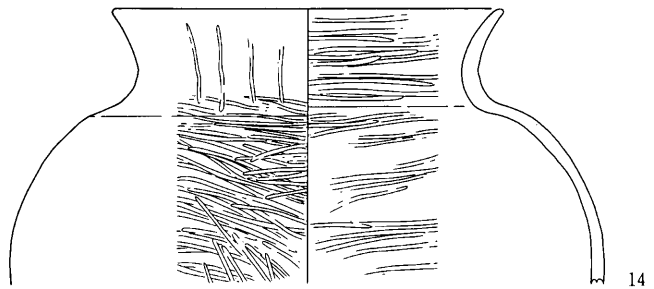
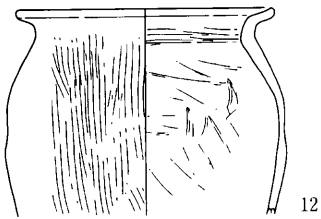
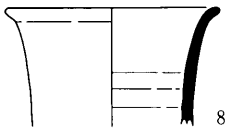
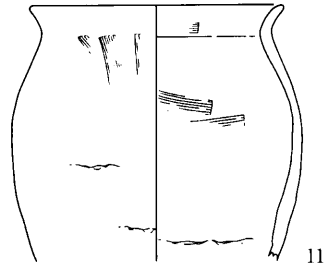
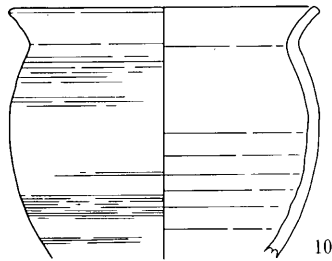
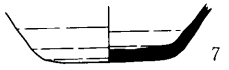
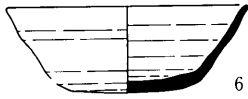
第9号住居址



第10号住居址



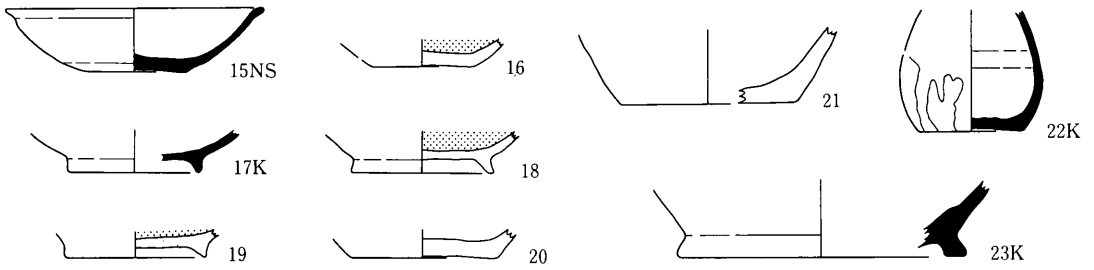
第11号住居址



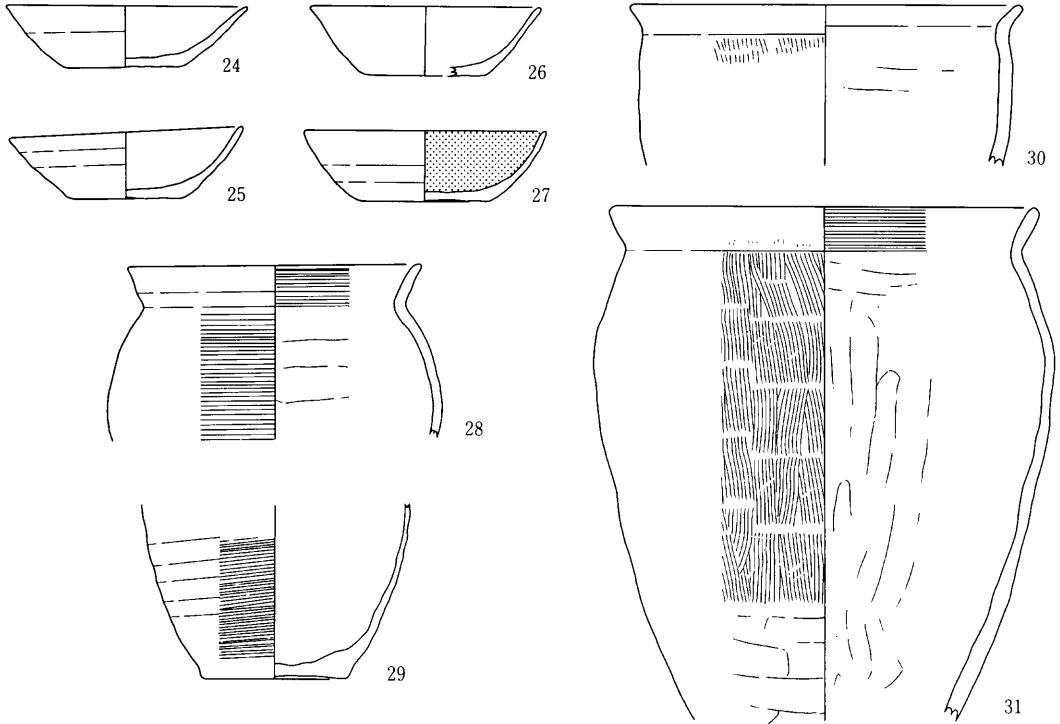
0 10cm

出土土器(1)

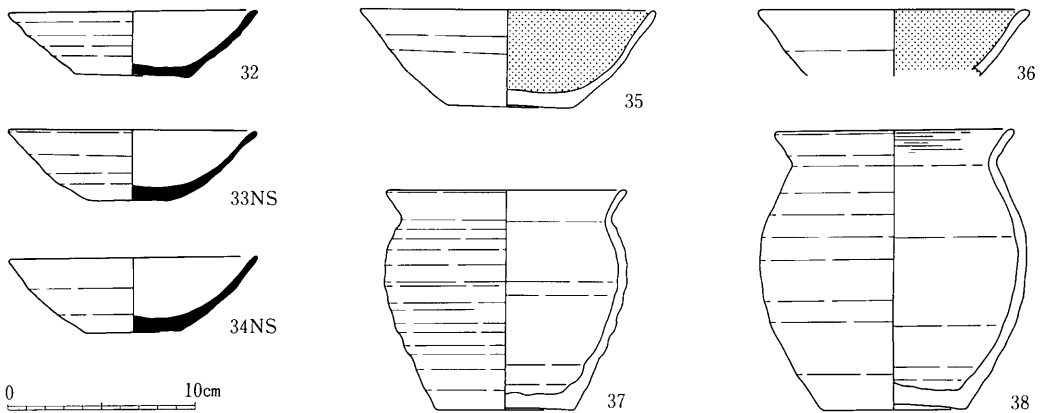
第12号住居址



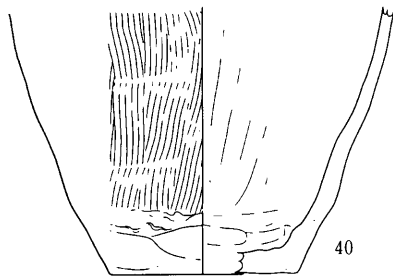
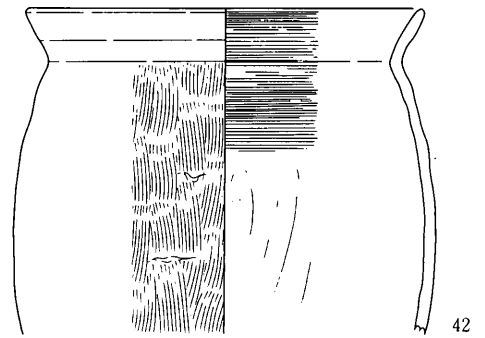
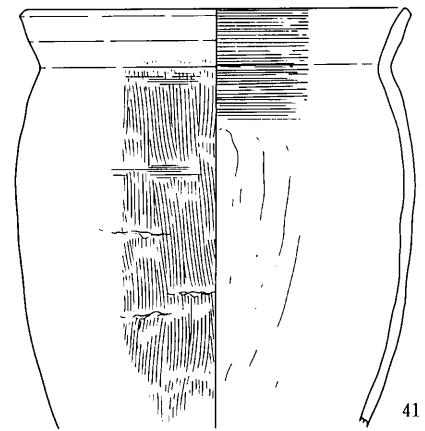
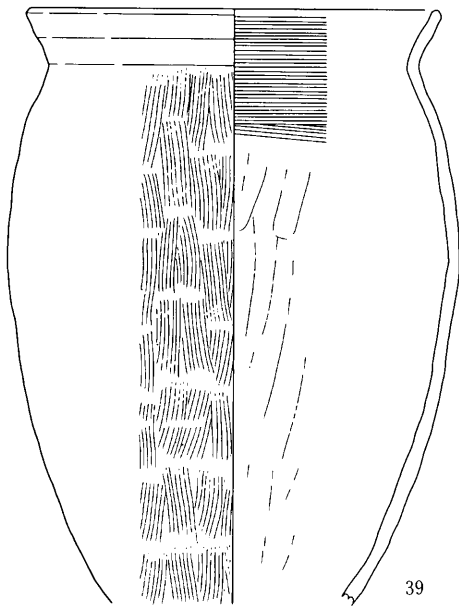
第13号住居址



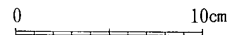
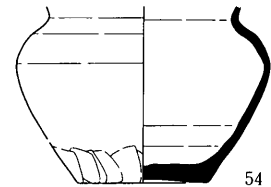
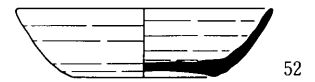
第14号住居址



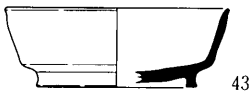
出土土器(2)



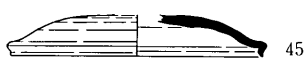
C 地点遺構外



5号土坑



7号土坑



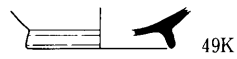
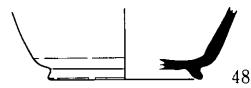
8号土坑



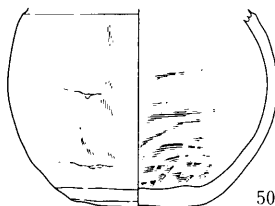
3号溝



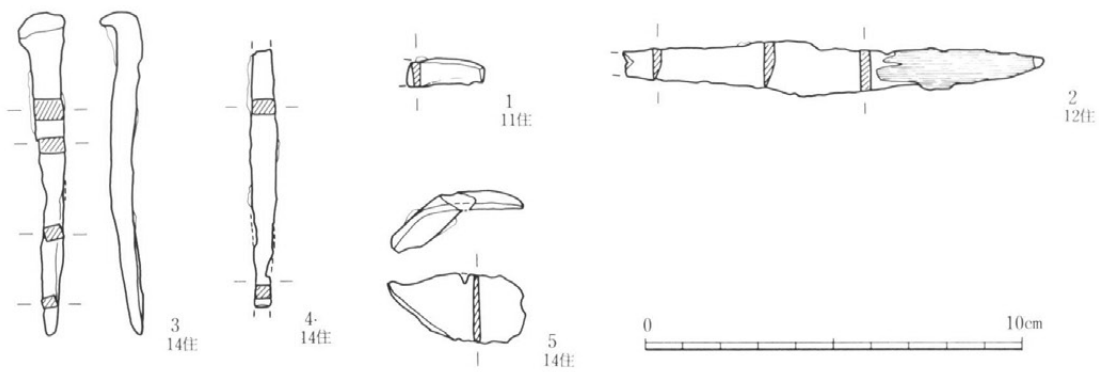
4号溝



ピット



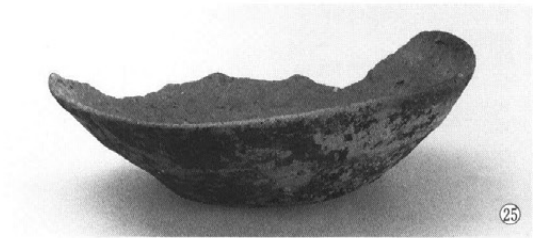
出土土器(3)



出土鉄器

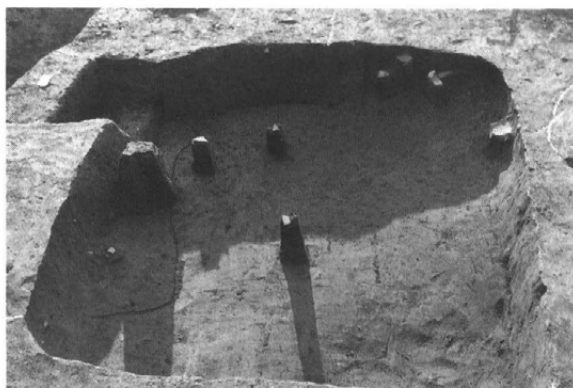
図版 1







C地点全景（南西から）



第9号住居址（東から）



第10号住居址（南から）



同カマド



第11号住居址（東から）



第12号住居址（東から）



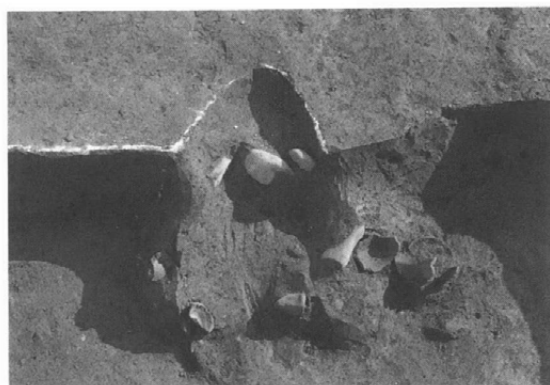
第13号住居址  
(北から)



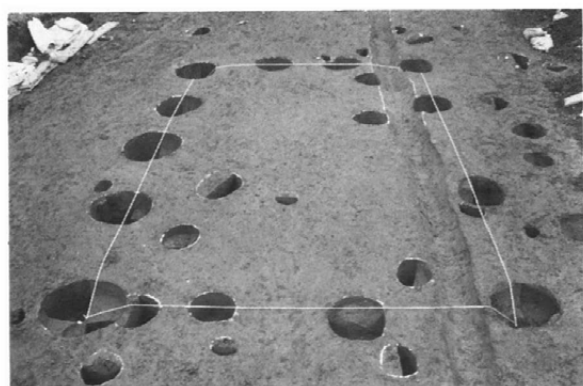
同カマド



第14号住居址 (西から)



同カマド



第5号掘立柱建物址 (南から)



D地点全景 (南から)

平田北遺跡Ⅲ発掘調査報告書抄録

ふりがな	まつもとしひらたきたいせきⅢきんきゅうはくつちょうさほうこくしよ							
書名	松本市平田北遺跡Ⅲ緊急発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	松本市文化財調査報告							
シリーズ番号	No.120							
編著者名	高桑俊雄・関沢 聡							
編集機関	長野県松本市教育委員会（松本市立考古博物館）							
所在地	〒390 長野県松本市中山3738-1 TEL 0263-86-4710							
発行年月日	平成7（1995）年3月22日（平成6年度）							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 °'〃	東緯 °'〃	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平田北	長野県松本市	20202	291	36度 12分 0秒	137度 58分 10秒	940916～ 941222	540	工場建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
平田北	集落跡	古墳 奈良 平安	堅穴住居址 6軒 掘立柱建物址 1棟 土坑 8基 ピット 96基 溝 4基	土器：土師器・黒色土器・須恵器・灰釉陶器 金属製品：釘・刀子				

松本市文化財調査報告 No.120

松本市平田北遺跡Ⅲ

—緊急発掘調査報告書—

平成7年3月22日 印刷

平成7年3月22日 発行

編集 長野県松本市教育委員会  
（松本市立考古博物館）

〒390 長野県松本市中山3738-1

Tel 0263-86-4710

発行 長野県松本市教育委員会

印刷 電算印刷株式会社